

先端研究設備部門会議議事録

日時：2015年1月8日 10:30～11:45

場所：東8号館 406 会議室

参加者：野崎教授、青山教授、桑原准教授、牧助教、守屋助教、小島氏(産学官連携センター)、加藤研究支援員

審議事項

1. 先端研究設備部門(旧 SVBL)の将来計画

先端研究設備部門は、現在は、研究設備センターの一部門であるが、その前は、産学官連携センターのベンチャー部門として、深く産学連携に関わっていた。設立以来、サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー(SVBL)として、若手外国人研究者の育成にも貢献した。しかし、研究設備センターの一部門となってからは、予算も限られ、設立当初のグローバルな若手育成、ベンチャー創出、企業との共同研究の活動も難しくなっている。本学の産学連携は、最近伸びやかなやんでおり、ものづくりから評価まで行え、企業の製品開発やベンチャー創出に活用できる学内唯一施設である先端研究設備部門を活用すべきである。そのためには、先端研究設備部門をどのように改革したらよいかを産学官連携センターの小島氏を招いて意見交換を行った。その結果、下記のような提案がされた。

- ・産学官連携 DAY で先端研究設備部門の施設、研究を企業の方に紹介する機会を設ける。
- ・海外インターンシップ生の受け入れ先として先端研究設備部門の施設を活用する。
- ・日本企業との共同研究ばかりではなく、海外企業との共同研究にも活用する。
- ・グローバルな若手育成、海外企業を含めた企業との共同研究、海外インターンシップ生の受け入れ、ベンチャー創出の実績を示し、研究設備センターの一部門ではなく、大学の独自の組織となるよう努力する。
- ・小島氏にお願いして、産学官連携センターにて先端研究設備部門の産学連携面での役割を検討してもらう。

2. 予算要求について

平成 26 年度は、学内の予算不足のため、申請額の 13%の削減された金額が、配分されたが、次年度の要求は、減額前の平成 25 年度と同額を要求する。

3. 来年度以降の体制

来年度の部門長を青山教授、副部門長を内田准教授とする。青山教授が研究設備センター運営委員会に出られない場合は、内田准教授が出席する。予算請求、事務等は、野崎部門長と荒木事務補佐員が支援する。

4. マスタープランにおける先端研究設備部民からの要求設備

2 年前の学内調査同様、先端ナノマシン材料システム 一式を 1 番とし、高分解能走査型電子顕微鏡を 2 番、高分解能 X 線回折装置を 3 番に要求することを決めた。

5. その他

- ・研究設備センターには規定集があるが、先端研究設備部門には規則が無いので、先端研究設備部門でも規則を作成する。
- ・東8号館にある展示パネルを企業の方にわかりやすいものに更新する。

以上